

生物生産科学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	我が国における食料自給率向上とその安定供給および世界の食料生産向上、食料生産と環境保全の調和のための持続的な生物生産技術の開発、動植物の生産機能の解明等に関する高度な専門的知識と論理的かつ柔軟な思考力を有していること。
観点(B)	生物生産科学の専門領域において独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識していること。
観点(C)	生物生産科学の専門領域における高度な科学的研究手法を身につけていること。
観点(D)	生物生産科学の専門あるいは関連する領域の研究者に自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力をもっていること。研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		生物生産科学特論	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅰ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅱ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅲ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅳ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅴ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅵ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅶ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅷ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅸ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅹ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅺ	●	○		
		生物生産科学フロンティア講義Ⅻ	●	○		
		生物生産科学特別講義	○	●		
		生物生産科学ビジネス戦略特論Ⅰ	○	●		
		生物生産科学ビジネス戦略特論Ⅱ	○	●		
		生物生産科学英語プレゼンテーション演習Ⅰ			○	●
		生物生産科学英語プレゼンテーション演習Ⅱ			○	●
		生物生産科学インターンシップⅠ	○	○	●	
		生物生産科学インターンシップⅡ	○	○	●	

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
生産環境科学	専門分野科目	作物生産学特論	○			
		土壌環境学特論	○			
		土壌生化学・物質循環特論	○			
		植物栄養・肥料科学特論	○			
		土壌微生物利用・バイオ肥料科学特論	○			
		家畜生産技術学特論	○			
		昆虫管理学特論	○			
		論文研究等	生産環境科学特別演習Ⅰ			○
	生産環境科学特別演習Ⅱ			○	●	
	生産環境科学特別実験Ⅰ	○	○	●		
生産環境科学特別実験Ⅱ	○	○	●			
植物生産科学	専門分野科目	作物学特論	○			
		植物生態生理学特論	○			
		園芸作物学特論	○			
		植物繁殖学特論	○			
		植物分子生理学特論	○			
		植物遺伝育種学特論	○			
	論文研究等	植物生産科学特別演習Ⅰ			○	●
	植物生産科学特別演習Ⅱ			○	●	
	植物生産科学特別実験Ⅰ	○	○	●		
	植物生産科学特別実験Ⅱ	○	○	●		
動物生産科学	専門分野科目	畜産学特論	○			
		動物組織機構学特論	○			
		蚕糸科学特論	○			
		昆虫遺伝・発生学特論	○			
		昆虫生理化学特論	○			
	論文研究等	動物生産科学特別演習Ⅰ			○	●
	動物生産科学特別演習Ⅱ			○	●	
	動物生産科学特別実験Ⅰ	○	○	●		
	動物生産科学特別実験Ⅱ	○	○	●		

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

共生持続社会学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	環境共生型の持続可能な社会構築のために、農学諸分野の科学技術にかかわる基礎知識を踏まえて、人文社会科学の総合的視点からのアプローチに基づく教育と研究にかかわる所定の課程を修めていること。
観点(B)	それぞれの専門領域において独創性の高い研究を行い、持続的な共生社会の発展のために専門的な立場から貢献することを自らの使命と認識していること。
観点(C)	それぞれの専門領域における高度な科学的研究手法を身につけていること。
観点(D)	研究成果を国内および世界に向けて発信するために必要なレベルの表現能力もしくは語学能力、及び研究者相互に理解を深めるためのコミュニケーション能力を身につけていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		共生持続社会学	●		○	
		共生持続社会学特別講義Ⅰ	●		○	
		共生持続社会学特別講義Ⅱ	●		○	
		共生持続社会学特別講義Ⅲ	●		○	
		共生持続社会学特別講義Ⅳ	●		○	
		共生持続社会学特別講義Ⅴ	●		○	
		比較共生社会論	●		○	
		インターンシップ実習	●			○
		共生環境科学特論Ⅰ	●		○	
		共生環境科学特論Ⅱ	●		○	
		共生環境科学特論Ⅲ	●		○	
		共生環境科学特論Ⅳ	●		○	
		共生環境科学特論Ⅴ	●		○	
		食糧環境科学特論Ⅰ	●		○	
		食糧環境科学特論Ⅱ	●		○	
		食糧環境科学特論Ⅲ	●		○	

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点				
			A	B	C	D	
共生人間学／環境社会関係学／食料環境経済学	専門分野科目	環境共生思想	●		○		
		風土共生倫理学	●		○		
		環境生業文化史論	●		○		
		ヒトと動物の共生心理学	●		○		
		農村社会学特論	●		○		
		アニマル・ウェルフェア特論	●		○		
		環境法特論	●		○		
		国際関係学特論	●		○		
		食育・食農教育論	●		○		
		環境経済学特論	●		○		
		共生農業特論	●		○		
		地域農業システム特論	●		○		
		農業資源経済学特論	●		○		
		食料関連産業特論	●		○		
		食農マーケティング論	●		○		
		論文研究等	共生持続社会学特別研究Ⅰ				
			共生持続社会学特別研究Ⅱ		●	○	
	共生持続社会学特別研究Ⅲ			●	○		
	共生持続社会学特別研究Ⅳ			●	○		
	共生持続社会学特別演習Ⅰ			●		○	
	共生持続社会学特別演習Ⅱ			●		○	

1. 修士課程の修了にあたっては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	生命活動を分子と分子、分子と細胞、ならびに分子と個体との相互関係という視点でとらえ、生命現象と生物機能を理解するための、高度な専門的知識と論理的かつ柔軟な思考力を身につけていること。
観点(B)	応用生命化学の専門領域において独創的・革新的な研究を率先して行うための課題探求能力・企画力・実行力を身につけていること。
観点(C)	応用生命化学の専門領域における、高度な科学的研究手法を学んでいること。
観点(D)	応用生命化学の分野に関する研究を通して、高い倫理性をもって社会の発展に貢献することを自らの使命と認識するとともに、成果を発信するためのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備えていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		応用生命科学特論Ⅰ	○			
		応用生命科学特論Ⅱ	○			
		応用生命科学特論Ⅲ	○			
生体分子化学	専門分野科目	生体分子化学特論Ⅰ	○			
		生体分子化学特論Ⅱ	○			
		生体分子化学特論Ⅲ	○			
		生体分子化学特論Ⅳ	○			
	論文研究等	生体分子化学特別演習Ⅰ				○
		生体分子化学特別演習Ⅱ				○
		生体分子化学特別研究Ⅰ		○	○	
		生体分子化学特別研究Ⅱ		○	○	
生理生化学	専門分野科目	生理生化学特論Ⅰ	○			
		生理生化学特論Ⅱ	○			
		生理生化学特論Ⅲ	○			
		生理生化学特論Ⅳ	○			
	論文研究等	生理生化学特別演習Ⅰ				○
		生理生化学特別演習Ⅱ				○
		生理生化学特別研究Ⅰ		○	○	
		生理生化学特別研究Ⅱ		○	○	

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
分子生物学	専門分野科目	分子生物学特論Ⅰ	○			
		分子生物学特論Ⅱ	○			
		分子生物学特論Ⅲ	○			
		分子生物学特論Ⅳ	○			
	論文研究等	分子生物学特別演習Ⅰ				○
		分子生物学特別演習Ⅱ				○
		分子生物学特別研究Ⅰ		○	○	
		分子生物学特別研究Ⅱ		○	○	
環境老年学（連携分野）	専門分野科目	環境老年学特論Ⅰ	○			
		環境老年学特論Ⅱ	○			
		環境老年学特論Ⅲ	○			
		環境老年学特論Ⅳ	○			
	論文研究等	環境老年学特別演習Ⅰ				○
		環境老年学特別演習Ⅱ				○
		環境老年学特別研究Ⅰ		○	○	
		環境老年学特別研究Ⅱ		○	○	

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

生物制御科学専攻

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	植物・昆虫・微生物・ウイルス等において、生物間の相互作用・環境適応応答・適応機序・遺伝・発生・生理機能の仕組みを、分子レベル・個体・個体群・群集に至る境界・複合領域的な専門知識と論理的、科学的な思考力に基づいて理解していること。
観点(B)	生物制御科学の専門および関連領域における研究を理解し、目的を明確にして計画を立案でき、独創的な研究を遂行できる企画力と実行力を習得していること。
観点(C)	生物機能制御学および生物適応制御学に関する高度な専門的な実験手法を習得し、実験結果を分析・考察し、論文をまとめる能力を身につけていること。
観点(D)	生物制御科学の専門領域に関する演習、研究発表を通じて、研究成果を社会に発信し、最先端科学を牽引するための表現力を習得していること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
生物機能制御学・生物適応制御学	専攻共通科目	生物制御科学特論Ⅰ	○	●		
		生物制御科学特論Ⅱ	○	●		
		生物制御科学特論Ⅲ	○	●		
		生物制御科学特論Ⅳ	○	●		
		生物制御科学特論Ⅴ	○	●		
		生物制御科学特論Ⅵ	○	●		
		英語プレゼンテーション演習		○		●
	専門分野科目	植物病理学特論	●	○		
		植物病原学特論	●	○		
		生物制御化学特論	●	○		
		生理活性天然物化学特論	●	○		
		細胞分子生物学特論	●	○		
		植物生理学特論	●	○		
		発生生物学特論	●	○		
		応用昆虫学特論	●	○		
		昆虫生理化学特論	●	○		
		天敵微生物学特論	●	○		
		生物的制御学特論	●	○		
		創薬化学特論	●	○		

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
生物機能制御学	論文研究等	生物制御科学特別実験Ⅰ			●	
		生物制御科学特別実験Ⅱ			●	
		生物制御科学特別実験Ⅲ			●	
		生物制御科学特別実験Ⅳ			●	
		生物制御科学論文演習Ⅰ				●
		生物制御科学論文演習Ⅱ				●
		生物制御科学論文演習Ⅲ				●
		生物制御科学論文演習Ⅳ				●

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

環境資源物質科学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	植物バイオマス資源・物質の生産、変換利用、再資源化、分解、廃棄、保存など低環境負荷の資源利用システムや、資源の物理化学的・光学的特性解析などの基礎科学に関する高度な専門知識と研究技術を習得していること。
観点(B)	専門領域において独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識していること。
観点(C)	汎用性の高い高度な研究能力を身につけていること。
観点(D)	自らの研究成果を国内外で発表して理解を得るために必要なコミュニケーション能力と語学力を身につけていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		環境資源物質科学特別講義Ⅰ	○			
		環境資源物質科学特別講義Ⅱ	○			
		環境資源物質科学特別講義Ⅲ	○			
		環境資源物質科学特論	○			
		環境資源物質科学コミュニケーション特論				●
環境資源材料学	専門分野科目	環境資源計測学特論		○		
		生物物理化学特論	○			
		分子ダイナミクス学特論	○			
		植物材料物性学特論	○			
		住環境材料加工学特論	○			
	論文研究等	環境資源材料学特別実験Ⅰ		●	○	
		環境資源材料学特別実験Ⅱ		●	○	
		環境資源材料学研究報告演習Ⅰ			○	●
		環境資源材料学研究報告演習Ⅱ			○	●

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
資源機能制御学	専門分野科目	資源複合機能学特論	○			
		植物繊維化学特論	○			
		バイオマス構造機能学特論	○			
		生分解制御学特論	○			
		植物資源形成学特論	○			
	論文研究等	資源機能制御学特別実験Ⅰ		●	○	
		資源機能制御学特別実験Ⅱ		●	○	
		資源機能制御学研究報告演習Ⅰ			○	●
		資源機能制御学研究報告演習Ⅱ			○	●

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

物質循環環境科学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	21世紀の人類が直面している環境問題の解決に貢献しうる環境化学ないし環境生物学分野の高度な専門知識と研究技術を習得していること。
観点(B)	専門領域において独創性の高い科学を担い、環境問題の解決を導く施策を提起することを自らの使命と認識していること。
観点(C)	物質循環環境科学における高度な科学的研究手法、研究技術を修得し、実験結果を分析・考察して論文をまとめる能力を身につけていること。
観点(D)	専門あるいは関連する領域の研究者に自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力、研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		環境生物学特論	○	●		
		環境化学特論	○	●		
		国際研究プレゼンテーションⅠ				○
		国際研究プレゼンテーションⅡ				○
環境生物学	専門分野科目	大気環境学特論	●	○		
		環境微生物学特論	●	○		
		環境植物学特論	●	○		
		環境汚染生物学特論	●	○		
		海洋環境生物学特論	●	○		
		環境生物学特別講義Ⅰ			○	●
		環境生物学特別講義Ⅱ			○	●
		環境生物学特別講義Ⅲ			○	●
	環境生物学特別講義Ⅳ			○	●	
	論文研究等	環境生物学特別実験Ⅰ		○	●	
		環境生物学特別実験Ⅱ		○	●	
		環境生物学研究報告演習Ⅰ			●	○
		環境生物学研究報告演習Ⅱ			●	○
		環境生物学英語論文講読演習Ⅰ	○			●
		環境生物学英語論文講読演習Ⅱ	○			●

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
環境化学	専門分野科目	生物圏物質循環学特論	●	○		
		有機地球化学特論	●	○		
		社会・生物地球化学特論	●	○		
		地球環境化学特論	●	○		
		環境毒性学特論	●	○		
		環境化学特別講義Ⅰ			○	●
		環境化学特別講義Ⅱ			○	●
		環境化学特別講義Ⅲ			○	●
	環境化学特別講義Ⅳ			○	●	
	論文研究等	環境化学特別実験Ⅰ		○	●	
		環境化学特別実験Ⅱ		○	●	
		環境化学研究報告演習Ⅰ			●	○
		環境化学研究報告演習Ⅱ			●	○
		環境化学英語論文講読演習Ⅰ	○			●
		環境化学英語論文講読演習Ⅱ	○			●

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

自然環境保全学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	自然環境保全学に必要な自然科学・社会科学や情報処理技術を備え、地球的視点から自然環境を多面的に捉え、持続的な利用と保全を考究する高度な専門知識と論理的かつ柔軟な思考力を有していること。
観点(B)	自然環境保全学専攻の専門領域において独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識し、その実践のために必要な課題探究能力・企画力・実行力を身につけていること。
観点(C)	自然環境保全学における高度な科学的研究手法、研究技術を身につけていること。
観点(D)	自然環境保全学専攻の専門領域において高い関与を有する領域の研究者としての研究能力をアピールし、相対に理解を深めるためのプレゼンテーション能力・語学能力とコミュニケーション能力を持ち、自然環境の持続的な利用と保全に関する諸問題の解決のためのデザイン能力を持っていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		自然環境保全学Ⅰ		○	○	○
		自然環境保全学Ⅱ		○		○
		自然環境保全学特別講義Ⅰ	●		○	
		自然環境保全学特別講義Ⅱ	●		○	
		自然環境保全学特別講義Ⅲ	●		○	
		インターンシップ		○	○	
		基礎統計学	○		○	

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
生態系保全学・森林環境保全学	専門分野科目	植生管理学特論Ⅰ	○	○		
		植生管理学特論Ⅱ	○	○		
		生物多様性保全学特論Ⅰ	○	○		
		生物多様性保全学特論Ⅱ	○	○		
		野生動物保全生態学特論Ⅰ	○	○		
		野生動物保全生態学特論Ⅱ	○	○		
		野生動物保全政策学特論Ⅰ	○	○		
		野生動物保全政策学特論Ⅱ	○	○		
		野生動物救護学Ⅰ	○	○		
		野生動物救護学Ⅱ	○	○		
		健康アメニティ科学特論Ⅰ	○	○		
		健康アメニティ科学特論Ⅱ	○	○		
		人間生理生態学特論Ⅰ	○	○		
		人間生理生態学特論Ⅱ	○	○		
		森林計画学特論Ⅰ	○	○		
		森林計画学特論Ⅱ	○	○		
		森林生態学特論Ⅰ	○	○		
		森林生態学特論Ⅱ	○	○		
		山地保全学特論Ⅰ	○	○		
		山地保全学特論Ⅱ	○	○		
		森林水文学特論Ⅰ	○	○		
		森林水文学特論Ⅱ	○	○		
		森林施設工学特論Ⅰ	○	○		
		森林施設工学特論Ⅱ	○	○		
		景観生態学特論Ⅰ	○	○		
		景観生態学特論Ⅱ	○	○		
		森林土壌学特論Ⅰ	○	○		
		森林土壌学特論Ⅱ	○	○		
	森林利用システム学特論Ⅰ	○	○			
	森林利用システム学特論Ⅱ	○	○			
	森林-人間系科学論Ⅰ	○	○			
	森林-人間系科学論Ⅱ	○	○			
	森林保護学特論Ⅰ	○	○			
森林保護学特論Ⅱ	○	○				
保全遺伝生態学特論	○	○				
論文研究等	自然環境科学特別研究	○	●	○		
	自然環境保全学特別研究	○	●	○		
	自然環境科学特別演習			●	○	
	自然環境保全学特別演習			●	○	
	自然環境科学外語論文購読演習	○		○	●	
自然環境保全学外語論文購読演習	○		○	●		

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

農業環境工学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	生命現象のメカニズム、生物の生産と利用、地域のレベルから地球規模に至る環境保全、人類の食料問題等に関する高度な専門知識と研究技術を習得していること。
観点(B)	農学と工学の手法を駆使した独創性の高い科学を担い、画期的な技術革新を実現し、社会の発展を持続させるためにとるべき施策を提起することを自らの使命と認識していること。
観点(C)	農業環境工学分野における高度な科学的研究手法を身につけていること。
観点(D)	自らの研究成果をアピールし、相互に理解を深めるためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力、研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけていること。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点				
			A	B	C	D	
専攻共通科目	基礎科目	空間情報解析学特論			●		
		計測工学特論	●		○		
		実験計画法特論	●		○		
		情報処理学特論			●		
		数値解析学特論			●		
		ダイナミクス特論	●		○		
		地球統計学特論		○	●		
		熱環境工学特論	○		●		
		農業・農村政策学特論		●		○	
		水環境保全学特論	●	○			
		応用科目	農業環境工学特別講義Ⅰ	●			
			農業環境工学特別講義Ⅱ	●			
			農業環境工学特別講義Ⅲ	●			
	農業環境工学特論Ⅰ		●				
	農業環境工学特論Ⅱ		●				
	農業環境工学特論Ⅲ		●				
	農業環境工学特論Ⅳ		●				
	農業環境工学特論Ⅴ		●				
	農業環境工学特論Ⅵ		●				
	農業環境工学特論Ⅶ		●				
	農業環境工学特論Ⅷ		●				
	農業環境工学特論Ⅸ		●				
	農業環境工学特論Ⅹ		●				

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点				
			A	B	C	D	
地域環境工学・生物生産工学	専門分野科目	地盤工学特論	○		●		
		地水環境工学特論	○		●		
		水利用学特論			●		
		システム工学特論			○		
		農村地域計画学特論	○		●		
		地域環境解析学特論			○		
		精密農業特論	○		●		
		カオス農学特論			●		
		自然エネルギー利用学特論	○		●		
		生産制御工学特論		○	●		
		論文研究等	農業環境工学特別演習Ⅰ	○	●		
			農業環境工学特別演習Ⅱ		○		●
			農業環境工学特別演習Ⅲ		●	○	
	農業環境工学特別演習Ⅳ			●	○		
	農業環境工学特別研究Ⅰ			○	●		
	農業環境工学特別研究Ⅱ			○	●		

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す

国際環境農学専攻

カリキュラム・マップ

1. 修士課程の修了にあつては、以下の点に到達していることを方針とする。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	環境農学、すなわち農学の伝統を基礎としつつ、食糧問題、環境問題等各種のグローバル・イシューを緩和し解決するべく、環境の修復・保全、環境に負荷を与えない食糧生産体系の確立、さらには地域開発・国際協力の実践を含む、農学・農学関連諸分野の最先端の成果に関する学識・見識を修得していること。
観点(B)	それぞれの専門領域において、環境農学の成果を具体的かつ創造的に適用しうる地域開発リーダー、専門的技術者、さらに一定の国際水準を満たす実践的な教育・研究者として活躍できる素養と教養を兼備していること。
観点(C)	環境農学において必要な問題解決能力を養い、高度な専門知識と研究能力とを併せ修得していること。
観点(D)	諸外国語、特に英語によるコミュニケーション能力を持つこと。

教育研究分野	科目区分	授業科目	観点			
			A	B	C	D
専攻共通科目		地域社会開発総論/General Aspect for Regional Development	●			○
		国際農業技術論/International Comparative Agricultural Technology	○	●		○
		地球環境論/Global Environment	●			○
		異文化コミュニケーション学/Intercultural Communication	○	○		●
		国際環境農学特論Ⅰ/Advanced Lecture on International Environmental and Agricultural ScienceⅠ	○	●		
		国際環境農学特論Ⅱ/Advanced Lecture on International Environmental and Agricultural ScienceⅡ		●	○	
国際環境修復保全学	専門分野科目	地域環境計画学/Regional Environmental Conservation Planning		○	●	○
		環境修復保全学/Environmental Rehabilitation and Conservation		○	●	○
		水利環境保全学/Environmental Water Use & Conservation		○	●	○
		水環境評価学/Aquatic Environmental Assessment		○	●	○
	論文研究等	国際環境農学コミュニケーション演習/Communication Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
		国際環境修復保全学特別研究/Research in International Environmental Rehabilitation and Conservation			●	
		国際環境修復保全学演習/Exercise for International Environment Rehabilitation and Conservation		○	●	
		国際環境農学課題別演習/Subjective Exercise for International Environmental and Agricultural Research			●	○
		国際環境農学国内外実習/Practical Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
	副専攻科目	国際環境修復保全学特論/Advanced Lecture for International Environmental Rehabilitation and Conservation	●	○	○	
国際環境修復保全学特別演習/Advanced Exercise for International Environmental Rehabilitation and Conservation		○	●	○		
国際生物生産資源学	専門分野科目	地域生物機能利用学/Utilization of Regional Biological Functions		○	●	○
		地域持続生物生産技術学/Regional Sustainable Bio-Production Technology		○	●	○
		生物資源循環利用学/Sustainable Utilization of Biological Resources		○	●	○
		生物新機能開発学/Improvement of Biological Functions		○	●	○
	論文研究等	国際環境農学コミュニケーション演習/Communication Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
		国際生物生産資源学特別研究/Research in International Biological Production and Resource Science			●	
		国際生物生産資源学演習/Exercise for International Biological Production and Resource Science		○	●	
		国際環境農学課題別演習/Subjective Exercise for International Environmental and Agricultural Research			●	○
		国際環境農学国内外実習/Practical Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
	副専攻科目	国際生物生産資源学特論/Advanced Lecture for International Biological Production and Resource Science	●	○	○	
国際生物生産資源学特別演習/Advanced Exercise for International Biological Production and Resource Science		○	●	○		
国際地域開発学	専門分野科目	途上地域人口社会学/Population Sociology		○	●	○
		環境農業協力論/International Cooperation on Sustainable Agriculture	○	●		○
		国際地域開発政策学/International Rural Development Policy		○	●	○
		国際開発協力論/International Development and Cooperation	●	○		○
	論文研究等	国際環境農学コミュニケーション演習/Communication Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
		国際地域開発学特別研究/Research in International Development on Rural Areas			●	
		国際地域開発学演習/Exercise for International Development on Rural Areas		○	●	
		国際環境農学課題別演習/Subjective Exercise for International Environmental and Agricultural Research			●	○
		国際環境農学国内外実習/Practical Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
	副専攻科目	国際地域開発学特論/Advanced Lecture for International Development on Rural Areas	●	○	○	
国際地域開発学特別演習/Advanced Exercise for International Development on Rural Areas		○	●	○		
ダブルディグリープログラム	専門分野科目	Regional Environmental Conservation Planning		○	●	○
		Environmental Rehabilitation and Conservation		○	●	○
		Environmental Water Use & Conservation		○	●	○
		Aquatic Environmental Assessment		○	●	○
		Utilization of Regional Biological Functions		○	●	○
		Regional Sustainable Bio-Production Technology		○	●	○
		Sustainable Utilization of Biological Resources		○	●	○
		Improvement of Biological Functions		○	●	○
		Population Sociology		○	●	○
		International Cooperation on Sustainable Agriculture	○	●		○
		International Rural Development Policy		○	●	○
		International Development and Cooperation	●	○		○
	論文研究等	Special Lecture for Agricultural DDPⅠ()	●	○		○
		Special Lecture for Agricultural DDPⅡ()	●	○		○
		Special Lecture for Agricultural DDPⅢ()	●	○		○
		Communication Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
		Research in International Environmental and Agricultural Science			●	
		Exercise for International Environmental and Agricultural Science		○	●	
		Subjective Exercise for International Environmental and Agricultural Research			●	○
		Practical Exercise for International Environmental and Agricultural Research	●			○
副専攻科目	Subcourse Research in International Environmental and Agricultural Science	●	○	○		
	Subcourse Exercise for International Environmental and Agricultural Science	○	●	○		
日本語科目	日本語コミュニケーションⅠ/Japanese CommunicationⅠ		●			
	日本語コミュニケーションⅡ/Japanese CommunicationⅡ		●			

●と○がある場合は●は主たる関与であることを示す